

【別紙様式 3】

再評価実施事業調書

番号	5	事業名	事業間連携砂防等事業 (地すべり事業)		路線又は箇所名等		地すべり防止区域 平群		
事業所管課		河川整備課		事業主体			千葉県		
事業化 年度	平成 20年度	用地着手 年度	—		工事着手年度	平成20年度	再評価 の理由	再評価	
				工事終了年度	令和10年度				
費用便益比 B/C	1.97 (4.24)	総費用 (現在価値)	8.45億円 (3.11億円)	総便益 (現在価値)	16.64億円 (13.18億円)	基準年	令和 5年度	供用開始 年度	令和 10年度

※上段：全体事業費 下段（ ）：残事業費

【事業概要】

(目的)

平群は、指定面積 211.7ha の地すべり防止区域である。

保全対象は、人家 24 戸、県道鴨川富山線があり、地すべりにより交通が寸断された場合は、地域防災や生活、経済に与える影響は極めて大きい。

平群地区は、一部の宅地や道路などで、地すべりの兆候が確認されている。

昭和 40 年度から地すべり対策事業に着手し、地すべりを防止するため、横ボーリング工、集水井工、明暗渠工や鋼管杭工などを実施してきた。近年、激甚化・頻発化する豪雨により、地すべり発生の危険性が高まっていることから、事業を進める必要がある。

(主な実施内容)

平群（地すべり防止工事）：横ボーリング工、集水井工、明暗渠工、鋼管杭工

【事業の進捗状況】(R5 年度末見込み)

	全体計画(億円)	投資事業費(億円)	残事業費(億円)	進捗率(%)
全体	6.79	3.40	3.39	50

【社会経済情勢等】

1976 年（昭和 51 年）以降の鴨川アメダス降水量データを見ると、年降水量には大きな変化は認められないが、一度の短時間降雨規模は大きくなる傾向にあり、平群においても地すべり発生の危険性が高まる懸念される。

②投資効果

・人家戸数 24 戸（19 戸）・県道 鴨川・富山線 1,177m（1,177m）

・市道 2,166m（1,990m）・私道 628m（542m）

[裸書：全体事業、（ ）：残事業]

【対応方針（案）】

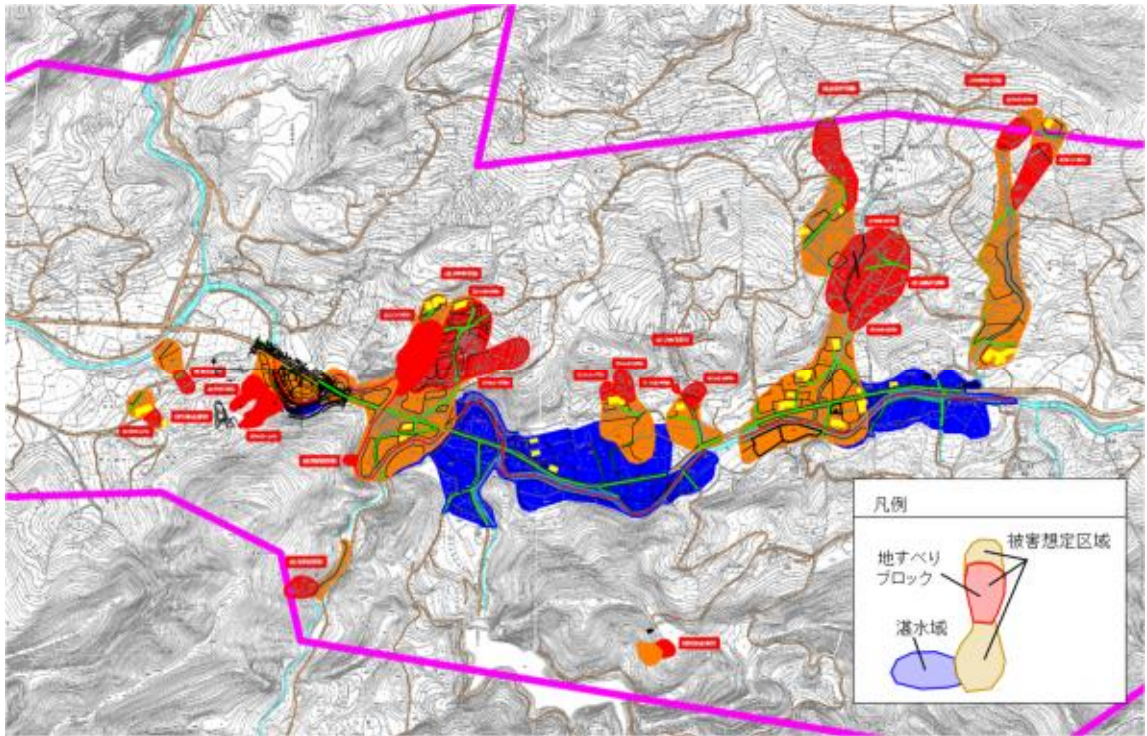
平群の地すべり対策事業の範囲には家屋などの資産があることや、県道鴨川富山線があり、地すべりにより交通が寸断された場合は、地域防災や生活、経済に与える影響は極めて大きく、また、全体事業の費用便益（B/C）は 1.97 と投資効果も見込まれることから、事業を継続することとする。

【別紙様式4】

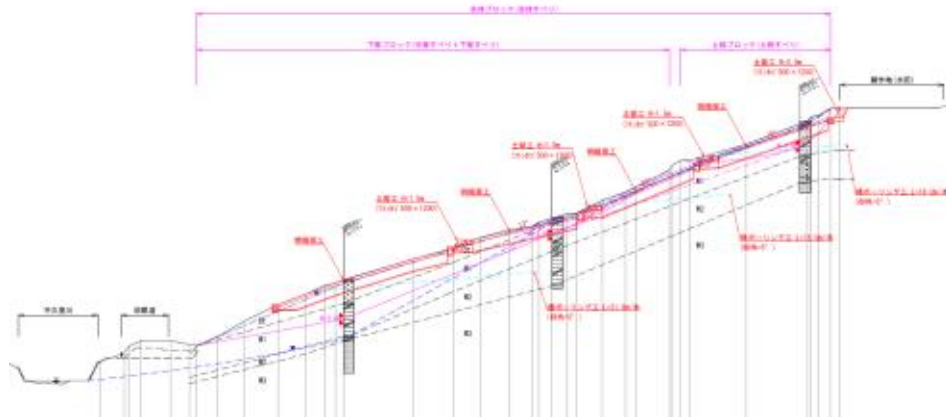
事業概要図

番号	5	事業名	事業間連携砂防等事業 (地すべり事業)	路線又は箇所名等	地すべり防止区域 平群
----	---	-----	------------------------	----------	-------------

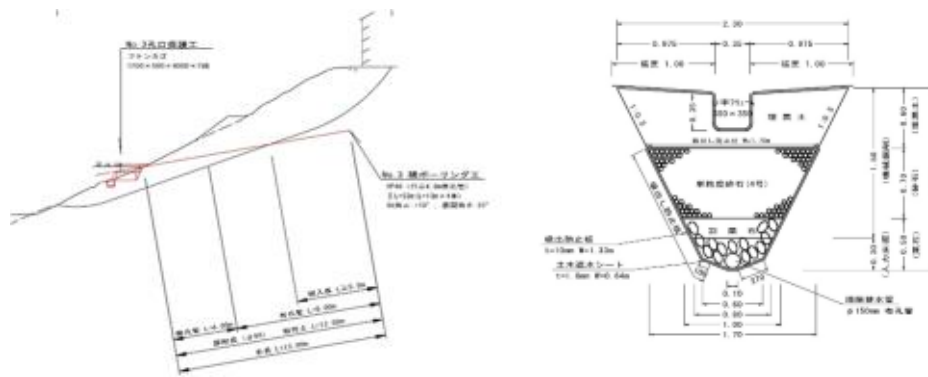
平群 地すべりブロック平面図



平群 地すべりブロック断面図



平群 地すべり対策施設



横ボーリング工

明暗渠工

【別紙様式5】

再評価事業に関する調書

番号	5	事業名	事業間連携砂防等事業 (地すべり事業)	路線又は箇所名等	地すべり防止区域 平群
事業化年度	平成 20 年度	用地着手年度	—	工事着手年度	平成 20 年度

【現在計画の概要】

当初評価 実施年度 (基準年)	平成 20 年度	供用開始年度	令和 5 年度	対応方針	継続
B/C	2.45	総費用	3.25 億円	総便益	7.97 億円

現在計画の進捗状況及び再評価時想定の 5 年後の進捗状況

	計 画	進捗状況 ()	5 年後の推定進捗状況
事業費	3.40 億円	3.40 億円 (100%)	—
うち用地・補償費	0 億円	0 億円 (-%)	—
うち工事費	3.40 億円	3.40 億円 (100%)	—

【再評価 (R5 年度) の概要】

再評価実施年度 (基準年)	令和 5 年度	供用開始年度	令和 10 年度	対応方針	継続
B/C	1.97 [4.24]	総費用	8.45 億円 [3.11 億円]	総便益	16.64 億円 [13.18 億円]

(※上段：全体事業、下段：[]：残事業)

現在の進捗状況

	計 画	進捗状況 (R5 末見込み)
事業費	6.79 億円	3.40 億円 (50%)
うち用地・補償費	0 億円	0 億円 (-%)
うち工事費等	6.79 億円	3.40 億円 (50%)

再評価後の
経過
及び
処理状況

令和 5 年 1 2 月 千葉県 県土整備公共事業評価審議会 再評価
(継続 が妥当である)